

2章 都市づくりの理念と目標

1. 都市づくりの基本方針
2. 目指す都市の姿
3. 将来人口指標
4. 将来都市構造

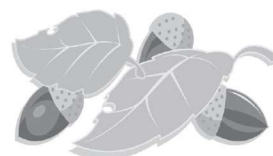


1. 都市づくりの基本方針

本市の都市づくりの基本方針として、「鉾田市総合計画」のまちづくりの視点である「自然との共生（緑）」、「地域の個性を活かす（縁）」、「市民との協働（絆）」を受け、また市民アンケートの結果等を踏まえて、次のように決めました。「第2次鉾田市総合計画」では、新たなまちづくりの視点として「地方創生の推進（紡）」が加えられ、都市空間づくりの考え方として、これらの5つの基本方針が示されています。

豊かな自然と共存・共生する都市を目指す

鹿島灘・北浦・酒沼など本市を取り囲む水、農業を支える肥沃な大地、市民に潤いを与え、水源涵養及び保水も担っている平地林や斜面林といった豊かな自然を保全・活用するなど、地域の特性を活かした土地利用を進め、自然と共生する持続可能な循環型の都市を目指します。



誰もが安心して暮らせる都市を目指す

日常生活の中では災害や事故だけでなく、医療や食などをはじめ、様々な面での安全性が問題となっています。都市づくりにおいても防災性や交通の安全性はもとより、医療施設等への交通ネットワークの確保や情報の速やかな伝達基盤などの都市基盤の整備をはじめ、整備にあたってユニバーサルデザイン^{※注}の徹底や地域コミュニティ育成のためのしくみづくりの推進など、安心して暮らし続けられる都市を目指します。

※注：「ユニバーサルデザイン」とは、年齢や性別、国籍、障害、能力等といった違いに関わらず、なるべく多くの人が利用可能であることを目指した施設、環境、製品等のデザインを指します。

農業を基軸とした活力ある都市を目指す

全国的にも高い競争力を持つ農業を基軸とし、商工業との連携や東関東自動車道水戸線、茨城空港などの新たなネットワークを活かした産業の育成、また適切な土地利用の規制・誘導や交通体系の整備によって、にぎわいのある中心市街地や地域商店街の振興を図り、産業全体に活力があふれる都市を目指します。



地域の個性を活かした都市を目指す

地域の個性が損なわれることなく維持・継承されてきた、鉾田地方の風土に培われた伝統的歴史文化が息衝いたその土地固有の地域資源が効果的に活用される、個性的で魅力ある地域が相互に連携する都市づくりを目指します。

市民協働でつくる都市を目指す

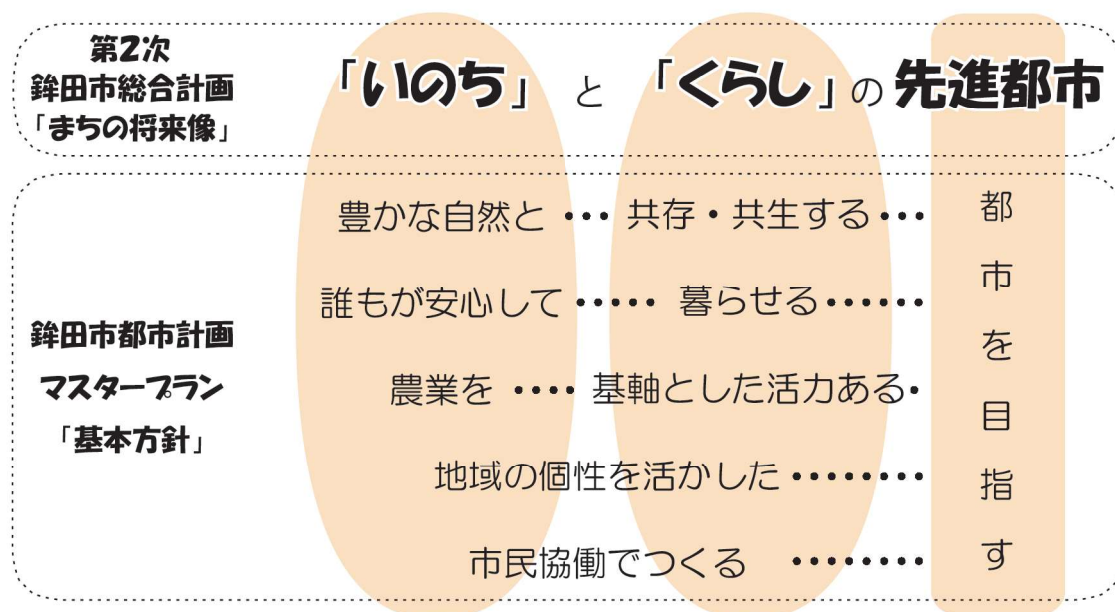
市民が自分たちの住む地域を愛し、誇りを持ってその地域の良さを発信し、より良くするために積極的にまちづくりに参加し、市民と行政が協働し、手を携えての都市づくりを目指します。



2. 目指す都市の姿

都市づくりの5つの基本方針を踏まえて、本市の目指す都市の姿を「銚田市総合計画」の将来像と同様に、次のように定めました。「第2次銚田市総合計画」においても、前構想における将来像を引き続き設定しています。

「いのち」と「暮らし」の先進都市 ～自然を尊び、農を誇り、喜びを生みだす、21世紀のまち～



総合計画の将来像と本計画の基本方針関連イメージ図

3. 将来人口指標

平成27年国勢調査における人口は48,187人、世帯数は17,430世帯です。

本市の人口は、1980年代後半のバブル経済等の社会情勢に対して大きな影響を受けず、ゆるやかな増加傾向にありましたが、平成17年をピークに減少に転じました。今後、少子高齢化の傾向も継続し、現在3割程度の高齢化率は更なる上昇も予測されており、本市のまちづくりにも大きな影響が出てきています。

本計画の前提とすべき将来人口は、市で策定する計画間の調整を図り、「第2期銚田市まち・ひと・しごと創生人口ビジョン及び総合戦略」における将来人口の見通しを参考に以下のように想定します。

令和12年（目標年次）：約40,700人～42,000人

4. 将来都市構造

(1) 都市構造の考え方

合併前の旧町村はそれぞれ中心となる市街地部を持ち、その中心と各集落とが連携した都市構造を形成してきました。本計画では、いままで構築されてきたこの構造を最大限に活かし、再構築して市としての一体性や効率性を強化し、総合力を高めることに重点を置きます。

既存の都市機能や地域資源等を積極的に活かし、市全体としてのバランスの取れた発展を目指すため、現在の土地利用をベースとした「ゾーン」に「拠点」を配置し、幹線道路を主とした「軸」でつなぐことによって新たな都市構造を構築します。

(2) 地域の個性を形成する「ゾーン」の配置

- 親水ゾーンとして、鹿島灘、北浦、涸沼の沿岸地域を位置づけます。
- 樹林地ゾーンとして、低地部と台地部の境に帯状に連なる斜面林や、台地上のまとまった平地林を位置づけます。
- 農地ゾーンとして、台地部の畑地や低地部に広がる水田及び、それらに抱かれた集落地を位置づけます。
- 市街地ゾーンとして、中心市街地（用途地域）周辺、旭総合支所周辺、大洋総合支所周辺を位置づけます。
- 工業・流通ゾーンとして、鉾田西部工業団地、上山鉾田工業団地、大蔵工業団地、鉾田インターチェンジ周辺、茨城空港北インターチェンジ周辺を位置づけます。

(3) 各種の機能を担う「拠点」の配置

- 鉾田市役所、旭総合支所、大洋総合支所の周辺を市街地拠点として位置づけます。
- 鉾田西部工業団地、上山鉾田工業団地、大蔵工業団地、鉾田インターチェンジ周辺、茨城空港北インターチェンジ周辺を工業・流通拠点として位置づけます。
- 鹿島灘海浜公園、いこいの村涸沼、ほっとパーク鉾田、とつぷ・さんて大洋、旭スポーツセンター、鉾田総合公園や大洋運動場及びそれらの周辺を健康・スポーツ拠点として位置づけます。

■ 鉾田市街地拠点の今後のあり方について

鉾田の市街地拠点においては、中心市街地の空洞化、浸水被害の可能性など市街地形成上の課題が山積しています。

鉾田市の中心部として、今後とも持続可能なまちづくりの拠点であり続けるために、立地適正化計画の策定、各種公共施設の移転再配置などを通じて、市街地拠点の今後のあり方を本格的に検討し、具体化していく必要があります。

(4) 拠点やゾーンを効果的に結ぶ幹線道路「軸」の配置

幹線道路などの交通軸として南北方向の国道 51 号や鹿島臨海鉄道大洗鹿島線及び鉾田環状線と環状線から放射状に広がる県道を位置づけます。

さらに、県道大竹鉾田線の未開通区間の整備や、都市計画道路串挽安塚線の整備を促進し、放射・環状型の道路体系の強化に努めます。

また長期的には、旭総合支所周辺の拠点と茨城空港北インターチェンジとを結ぶ構想道路、県道鉾田鹿嶋線と県道下太田鉾田線を結ぶ合併支援道路の整備を促進し、市域西側で小美玉市との市境を走る県道水戸神栖線や、鹿行大橋の架け替えにより機能が強化された国道 354 号などとともに、現在の放射・環状型から梯子状の道路体系へ移行を目指します。

それぞれの拠点を通るこれらの道路ネットワークと、東関東自動車道水戸線の鉾田インターチェンジや茨城空港北インターチェンジがつながることにより、産業、観光交流及びまちづくり等の市内各拠点、各地域と高速交通網との円滑な接続が可能になります。

4. 将来都市構造

将来都市構造図

